

## 銚子市の医療

### 1 銚子市の医療の現状

#### (1) 銚子市の医療の背景

銚子市の現状については、他の地方都市以上に顕著な人口減少と少子高齢化が大きく関わっています。銚子市の人口推移は、この10年で10%以上減少し、今後さらに加速が推定されます。特に生産年齢人口の減少と若年世代の市外への流出が顕著で、今後は老若同居世帯の減少、独居老人等の増加が予測され高齢者施設の充実が望まれます。当然、高齢化率が上昇すれば医療・介護の需要増大も予測されます。

銚子市民の平均寿命は全国平均より男女ともに2歳程度低く、県のワーストランキング上位を占め続けています。死亡原因としては、がん、心疾患、脳血管疾患、肺炎等で、それらの人口当たりの死亡率は国や県に比べ高値です。

市では現在、胃がん、大腸がんの無料検診を行っていますが、検診受診率が低く改善が必要です。また、高血圧症、循環器疾患の有病率は県の平均を上回り、今後若い年代の有病者・予備軍の発掘や指導が重要です。

#### (2) 銚子市の医療体制

##### ①医師会

銚子市には、5軒の病院、30数軒の診療所があり、開業医・勤務医合せて60余名が医師会に所属しています。

診療所では外来を主とする一般診療や在宅診療を、病院は外来診療に加え入院を要する急性期医療、リハビリや療養に関わる医療の他、老人保健施設等の介護事業も行っています。医師会はその他にも休日当番医、夜間小児急病診療所、特定検診、行政との各事業への参加等、市における医療保健活動の中心的存在となっています。

しかし、医師会員の平均年齢も60歳代で年々高齢化し後継者も少ない現状で、増大する高齢者医療介護を全て賄うには不十分な状況となってきており、今後市として新たな対策が求められます。

##### ②救急医療

香取海匝地域で高度急性期医療を担うのは旭市の旭中央病院で、周辺市町村の病院では対応困難な重症疾患を扱う中核病院として機能していますが、現在旭中央病院への軽症患者や夜間診療等の安易な受診による患者集中が問題となっています。

銚子市民の急変時医療は、主に平日昼間は市内診療所・病院の「かかりつけ医」、夜間は「かかりつけ医」、夜間小児急病診療所、病院当直医が行い、また日曜・休日昼間は「休日当番医」、夜間は「かかりつけ医」、病院当直医が行っています。しかし、病院間の救急輪番はなく旭中央病院救急外来への銚子市民の受診が、年間6,000件を超える結果をもたらしています。

銚子市救急隊の搬送件数は年間約2,400件で、内訳として約42%が軽症、約43%が中等症で、軽症を多く含む搬送先は約32%が旭中央病院です。銚子市の救急医療にとって、今後も旭中央病院の3次救急病院としての役割を維持することは重要で、早急に24時間救急体制の確立が求められます。

## 2 銚子市の医療の今後の課題

### (1) がん・生活習慣病対策

銚子市はがん死亡率が高く、生活習慣病、特に高血圧症や循環器疾患が多いので、その対策として市には「検診の充実」と「健康啓発活動の拡大」が求められます。

まずは、他市に比して低い胃がん、大腸がんの検診受診率向上に取り組み、死亡率の低減を図る必要があります。また肺がん死亡率も高く、検診とともに銚子市内全体での禁煙・分煙の徹底を行うこと等も考慮すべきです。

次に、生活習慣病対策では若い年代の有病者・予備軍の発掘および指導が重要です。そのためにも特定検診の普及に努めるとともに、健康啓発事業として「市民健康講座」等を積極的に開催し、より住民の意識を高めていく必要があります。

### (2) 高齢者福祉

高齢者福祉には施設型サービスと在宅支援サービスがあります。

施設型サービスは銚子市ではある程度数的には充たしていますが、これからの超高齢化社会の到来を考えると認知症対応型の施設はまだ不足していて、今後の市の福祉において認知症対応サービスの充実を図らなければなりません。

それから今後重要となるのは、地域包括ケアシステムの構築です。これは国の施策として掲げられたもので、「2025年を目処に高齢者が住み慣れた地域で住み続けられるように、医療・介護・生活支援・介護予防を一体的に提供するシステムで、保険者である市町村や県(行政)が地域の特性に応じて作り上げる必要がある」とされ、実現を求められています。主として在宅を支える支援体制の強化が主になりますが、必要となる在宅支援サービスでは、銚子市は訪問看護と訪問リハビリが少なく近隣に頼る状況です。既に市は地域包括ケアシステム構築の準備を始めていますが、今後体制整備のためにはさらなる労力、努力が必要です。

### (3) 救急医療

救急医療では、1次(軽症、外来で対応)、2次(重症ではないが入院が必要)、3次(重症)の区別があります。これを銚子市に当てはめると、1次・2次救急は市内の診療所・病院が、3次救急は旭中央病院が担当するのが本来です。しかし、現在銚子市の救急は、診療所・病院が個々に努力、対応していますが、原則として昼間が主で夜間の体制が確立されていません。そのため市民は自主的に3次救急病院である旭中央病院を受診し、特に夜間帯はその傾向が強く旭中央病院の夜間救急は軽症患者で溢れる状況を来しています。銚子市の救急医療においては夜間帯と入院の輪番制を確立させ、救急機能の充実を図ることが喫緊の課題です。